

Nov. 1933.

307

7*) 葉は稍大形, 卵圓形, 齒牙は鈍し

Euphrasia Masamuneana OHWI sp. nov. ヤマコゴメグサ

Caulis e basi ascendente erectus puberulus, foliis majusculis ovato-orbicularibus glabris, dentibus utrinque 2-3, obtusis, calyce glabriusculo, corolla dorso 8-9 mm longa: Formosa: 能高山.

FRANCHET et SAVATIER, Enum. Pl. Japon.

の出版年代

大井次三郎

本邦の植物に關する FRANCHET et SAVATIER 兩氏の不朽の名著 *Enumeratio Plantarum in Japonia Sponte Crescentium* の出版年代は原著の表紙に記されてある通りに第一卷 1875 年, 第二卷 1879 年と云ふのが普通に使はれて來たものであるが, 東京植物學雜誌第四十卷 (1926) 365 頁に於て中井博士が“實ハ第一卷ハ其レデヨイガ, 第二卷ハ二部ヨリ成リ 1-506 頁ハ 1876 年版, 507-789 頁ハ 1879 年版デアル”事を指摘されて以來此れに従ふ人が可なりある様に見受けられる. 同書の中には私の關係して居る本邦のスゲの新種の發表等隨分澤山あるので此の事については少なからぬ關心を持つて居た, 所が又ネコノメサウ屬にも少々興味を持ち出す様に成つてからは一層切實な問題となつて來た. その爲めに不止得若干調べて見た所思つたよりは複雑で結局判らなくなつてしまつたのであるが此處にその委曲だけを一寸述べさせて頂く事にする.

まづ第一に *Enum. Pl.* の第一卷であるが, 此れは *Bull. Soc. Bot. France*, 20 (1873) bibl. 187 et 26 (1879) bibl. 1 や *Botan. Zeit.* (1874) 112 et 527 (1877) 568 (1878) 443 (1879) 376 や *Botan. Jahresber* (1874) 708 (1878) 943 (1879) 467 等の抄録によれば確かに二部に分けて出版されたのであつて教室所藏のもの内扉にも Vol. I, pars I, 1874 とあるものがある, その年代は 1874 年と 1875 年とであつて第一部と第二部との區切りは私の調べた範圍では明瞭ではないが繖形科又は五加科の部分である事は疑ふ餘地がない, しかし同時に第一部は 172 pp. であると記したのもあるので Bogen 11-12 (pp. 161-193) は四年度のものか五年度のものか明かでないがそれまでは第一部, それ以後は第二部と考へて差支へないと思ふ.

第二卷は中井博士によると二部から成るとの事であるが *Botan. Zeit.* (1878) 443 et (1879) 376 等によると三部から成つて居つて, 第一部は單子葉植物から始まり羊

齒類に終る名彙の全部 (pp. 1-255) である、此部の年代は *Botan. Zeit. l.c. et* (1877) 568 によれば 1877 年又は 1876 年と成つて居るが *Botan. Jahresber.* (1878:2) 943 には 1875 年と成つて居る、何れが眞であるか判断のし様がないが恐らく 1877 年よりも前と思はれる。それから同じく *Botan. Zeit.* (1879) 376 には第二部及び第三部は各々 1878 年及び 1879 年の出版と成つて居る。中井博士は (第二巻を二部から成るとされては居るが) 1876 年及び 1879 年と考へて居られる、しかし第二巻の 260 頁に *Octobre 1876* とあるから實際の発行日はその次年以後であらう。此の二部と三部との區切りは調ただけの材料では一つも明瞭な點が見當らぬが中井博士は 506 頁と 507 頁との間にあると考へて居られる。又小泉先生からはかねて 624 頁と 625 頁の間で切れると同つて居つたので何れが何れやら薩張り判らなかつた。所が今春臺灣に旅行したとき臺北の正宗嚴敬氏の所蔵して居られる此の書が變な所で切れて居ると同氏に承つたので早速拜見した所、624 頁と 625 頁との間で切れて居るのであつて此の事は又最近に鈴木時夫氏に御依頼して確めて頂いた、此れは小泉先生にお伺ひした所とよく合致するので恐らく此れが實際の區切り場所ではないかと思ふ。

尙最後に *Bull. Soc. Bot. France* 26 (1879) *Rev. Bibl.* 1. に全體の出版年代が 1874-1878 年と成つて居るのは注目に値すると考へる、と云ふのは *Enumeratio* の第二巻の *Index* 727 頁に *Les espèce précédées d'un * sont décrites dans une Note lue à la Société botanique de France, séance du 8 Novembre 1878* (實際は 28 *Février* 1879 日附の同誌に掲載) と云ふ記事があり、且つ * のついた種には頁數の引用がないから此の *Index* は 1878 年の十一月までには校正が出来た事に成り、その部分迄少くとも 1879 年の春早々までに或は 1878 年の年内には發行に成つて居たのであると考へる事が出来るからである。

此の様に出版年代は思つたよりは複雑して居て吾々若輩者には手に負へ相もないので一切は先哲の方々に解決して頂くのを待つ事にする。終りに色々と御指導をたまはつた恩師小泉先生に厚く御禮を申上げる次第である。

抄 録

遠藤隆次：—南滿洲前寒武利亞紀海藻 (*R. YANDO* :—*Manchuriophycus*, nov. gen., from a Sinian Formation of south Manchuria, in *Jap. Jour. Geol. Geogr.* XI. 1933 p. 43—48, t. 6. 7.).